

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	62人	社会	61人	数学	61人
	理科	61人	英語	61人		

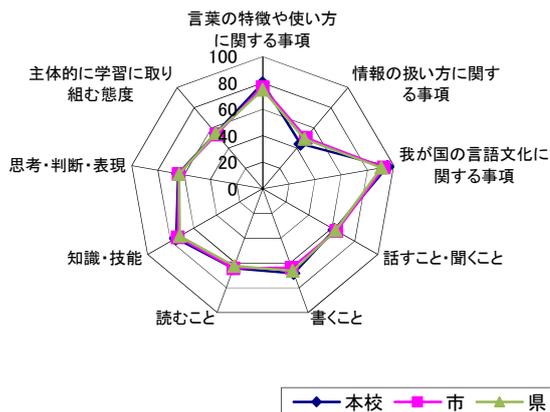
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	79.9	76.9	74.9
	情報の扱いに関する事項	44.4	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	95.2	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	62.4	64.2	63.4
	書くこと	68.3	63.7	66.4
	読むこと	64.3	64.2	62.5
観点	知識・技能	75.3	73.7	71.9
	思考・判断・表現	64.6	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	54.9	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

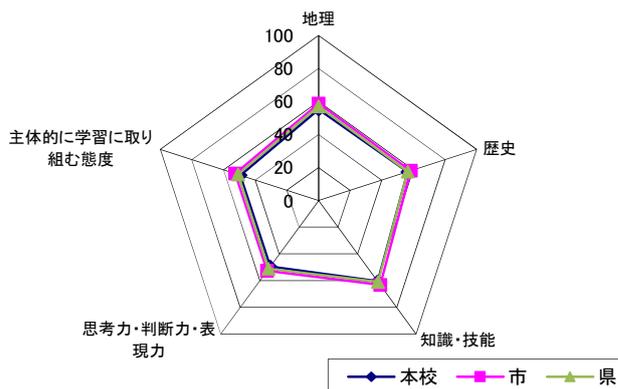
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○市の平均を3.0ポイント上回った。ドリル教材を用いて小テストや振り返りを行うことで、漢字の読み書きの定着が見られた。 ●大問3の(3)、「文節の関係」についての問題の正答率が芳しくなく、定着しているとは言えない。	・引き続き漢字のテストや、語句の使い方をテストする語句テストを定期的実施することで、定着を深める。 ・文法は、1年生の基礎的な部分からの復習を授業の中で何度か実施していくことで定着を図る。
情報の扱いに関する事項	○正答率が80%以上の生徒はある程度の理解が見られ、上位層には理解が及んでいる。 ●説明的な文章の中から必要な情報を読み取る力が十分に養成されていない。接続語や指示語などのそれぞれの効果や役割などを捉えきれていない。	・情報化社会と呼ばれて久しい現代には数多の情報が溢れている。その中で情報の精査・吟味・取捨選択能力が必要になってくる。説明文や批評文を書く単元において、用いる情報とそうでない情報の吟味などを効果的にしていくことで、情報の扱い方についての力を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	○市の平均、県の平均をそれぞれ2.6ポイント、4.5ポイント上回った。歴史的仮名遣いについての理解はしっかりと定着していることが分かる。	・古文の基礎・基本である歴史的仮名遣いは法則とパターンを理解すれば定着が深まる。授業の際に分かりやすく、噛み砕き指導していくことが必要になる。 ・指導後の復習・小テストなどを行うことで定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県・市の平均よりもそれぞれ1.0ポイント、1.8ポイント低かった。 ○大問1の(1)～(3)の正答率は、市や県とあまり相違なかった。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように話しの構成を考え、伝える部分に課題が残る。	・聞き取りテストの継続的な実施はもとより、コロナ禍の中でできるスピーチ発表や、グループ学習のやり方を模索していくことで、「話すこと・聞くこと」の学習機会を削減しないようにしていきたい。 ・最もコロナ禍の影響を受けた単元であるため、多対一などではなく、教師と生徒1対1からスピーチを聞くなど教師による授業形態の工夫に努める。
書くこと	平均正答率は、県・市の正答率をそれぞれ4.6ポイント、1.9ポイント上回った。 ○特に読み取った内容を明確にして書くという面で大きく県の正答率を上回っている。 ●書くことへ抵抗のない生徒と白紙での回答になってしまう生徒が両極端になってしまっている。	・作文指導や「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくことで、「書く」能力を育成し、高校入試等の作文にも自信をもって取り組める力を身に付けさせたい。 ・「自分の考えを明確にして書く」ことに課題が残る結果であったので、ミニレポートの課題提出などで指導を強化していく。
読むこと	平均正答率は県・市の正答率をそれぞれ1.8ポイント、0.1ポイント上回った。 ○文章の構成を基に、根拠を明確にして考える力が付いてきている。 ●文章の内容の叙述を整理して捉えるという力に課題が残っている。	・説明的文章は授業の中で、取り組み方やコツを伝える時間を確保し、解説をしているため、その成果が微細ながら表れてきている。これを継続していく。 ・物語文では、心情の読み取りや心情の変化など、情報機器を用いて他者との意見交換など行っていく。授業中の対話的な発問を繰り返していくことで生徒一人一人の深い読みを実現していく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.1	58.7	57.0
	歴史	56.3	58.3	56.4
観点	知識・技能	60.5	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	49.4	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	49.3	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

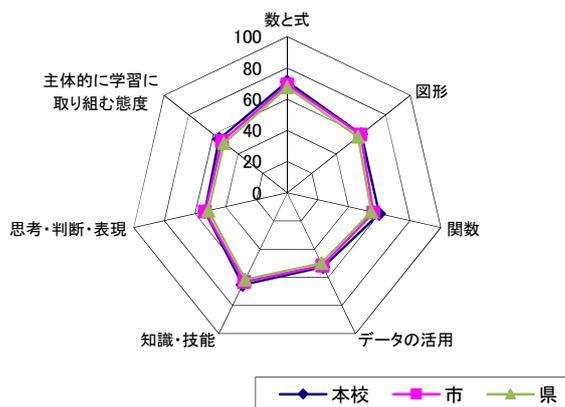
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○世界各地の気候を両温図で読み取る問題やオセアニア州の気候と農業について、資料を読み取る問題については県の平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>●地理的分野では、市の平均を3.6ポイント、県の平均を1.9ポイント下回っている。</p> <p>●緯線・経線を使った地図の読み取りや世界各地の農業や工業の資料読み取り問題について、県の平均を5ポイント以上下回る問題がいくつか見られた。</p>	<p>・資料の読み取りについては、授業で取り組む際に、世界各地や日本各地の特徴と関連付けながら読み取れるよう指導するとともに、既習内容に触れながら指導することや読み取る際に着目する点を意識付けることを心掛けていく。</p>
歴史	<p>○縄文時代から古墳時代にかけての古代についての問題では、県の平均を5ポイント以上上回る問題がいくつか見られる。</p> <p>○中世の日本の武士の成長に関する記述問題では、県の平均を11.5%上回っている。</p> <p>●歴史的分野では、市の平均を2.0ポイント下回っている。</p> <p>●資料の読み取り問題について、県の平均を5ポイント以上下回る問題がいくつか見られる。</p>	<p>・資料の読み取りについては、授業で取り組む際に、何についての資料なのか、何を示すための資料なのかなど着目する点や比較する際の注意点などを繰り返し指導することで読み取りに慣れるようにしていく。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	71.2	69.3	67.7
	図形	60.2	59.8	57.7
	関数	59.9	56.2	54.7
	データの活用	52.7	51.6	49.9
観点	知識・技能	65.3	63.2	61.5
	思考・判断・表現	53.7	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.3	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

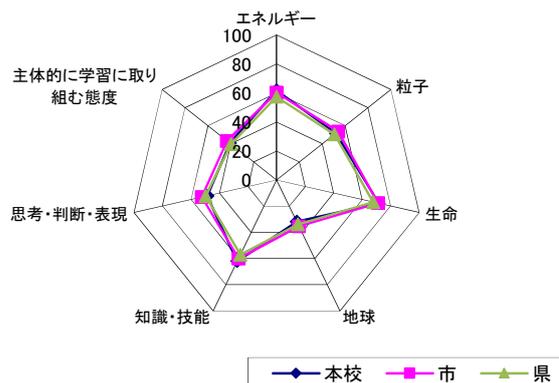
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○「数と式」の領域全体は、県と比べて3.5ポイント正答率が上回っている。昨年度は3.5ポイント下回っていたので、大きな改善である。</p> <p>●「1次方程式を解く」問題で、県に比べて3.4ポイント低い結果となっている。</p>	<p>・方程式の解き方についても一度授業の中で確認する時間を設けて、復習を行っていく。計算のきまり、文字の使い方などの基本的な考え方が十分定着しているので、応用的な問題に取り組む時間を増やし、思考・判断・表現の力をつけていく。</p>
図形	<p>○図形の領域全体は県と比べて、2.5ポイント高い。「作図」の問題では13.5ポイント、「空間図形のねじれの位置」では、県の平均を8.3ポイント上回っている。</p> <p>●「球の表面積を求める」問題は県より3.5ポイント低くなった。</p>	<p>・おうぎ形や円錐、球といった図形の面積や体積を求める方法について復習する時間を授業で設けて、確認させていく。また、図形の移動について定着が不十分なので、図形の単元において1年生の復習を加えながら指導をする。</p> <p>・上位層と下位層の点数差が大きいため、習熟度別学習を効果的に活用していく。</p>
関数	<p>○関数の領域は県と比べて5.2ポイント高く、市と比べても3.7ポイント高い。特に、「比例のグラフをかく」問題は県と比べて正答率が14.8ポイント高い。</p> <p>●日常生活の中で関数関係をみつけて考える問題については正答率が40.3ポイントと低い。</p>	<p>・関数の定義について、改めて確認する。関数の基本である「表・式・グラフ」を関連させて考えられるように今後も継続して指導にあたっていく。特に、1次関数の単元では、1年生の比例や反比例の復習を加えながら、グラフ読み取り問題の利用方法を説明させたりするなど、数学的に考える機会を増やしていく。</p> <p>・関数の問題では、ICT教材を効果的に活用することで、視覚的な理解度が上がっていくので、授業の中に積極的に取り入れる。</p>
データの活用	<p>○「階級の度数」についての問題では、県と比べて10.1ポイント高い。</p> <p>●データの活用に関する設問の平均正答率は、52.7ポイントと他の領域に比べて低くなっている。</p>	<p>・データの整理や活用の単元は、苦手とする生徒が多いことが分かったので、授業の中で改めて確認する時間を設ける。「相対度数」や「累積度数」などの応用的な問題について、日常生活に関わる資料を取り入れつつ、生徒の理解度を深めていく。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	61.8	60.3	57.4
	粒子	51.8	53.8	50.7
	生命	71.7	71.2	67.8
	地球	31.8	35.3	33.8
観点	知識・技能	62.0	59.9	57.0
	思考・判断・表現	48.6	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	40.9	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

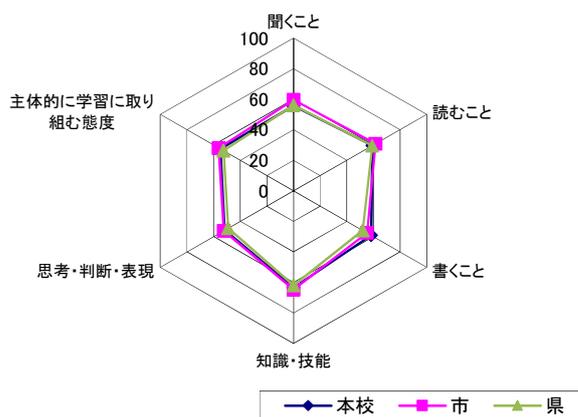
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○県の平均を4.4ポイント、市の平均を1.5ポイント上回った。特に音の性質の領域では正答率が高く、実験の結果をもとに、考察を丁寧にを行うことで、内容が定着したと考えられる。</p> <p>●「虹のような帯が見えることと光の屈折の関係」についての出題は正答率が低く、授業の内容と身近な現象が上手く結び付いていないと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き実験計画から考察までの流れを丁寧に学習し、内容の定着を図る。 授業で取り上げた現象が身近なものでどのように使われているのかを伝え、生徒の興味を引き出す指導を行う。
粒子	<p>○県の平均を1.1ポイント上回った。知識・技能を問う問題の正答率が高く、基礎的な内容は定着していると考えられる。</p> <p>●水溶液の性質の領域では正答率が低い。また、物質の状態変化のグラフの問題では市の平均を10.9ポイント下回る結果となった。計算問題やグラフ問題に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで定着を深めていきたい。 溶解度の計算など数的な関係に苦手意識がある生徒がいるので、計算力をつけさせる指導を行う。 グラフの見方、書き方を丁寧に指導し、反復練習を行う。
生命	<p>○県の平均を3.9ポイント、市の平均を0.5ポイント上回った。知識・技能を問う問題の正答率が高く、基礎的な内容は定着していると考えられる。</p> <p>●思考・判断・表現を問う問題の正答率が低い。特に基礎的な内容を活用して答える問題や記述問題の正答率が低い傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も基礎的な内容を重視した指導を継続することで定着を促す。 実験の考察の時間を確保し、自分の言葉で説明する力を育成していきたい。
地球	<p>○初期微動継続時間を推測する問題の正答率が高く、県の平均を6.4ポイント上回った。基礎的な内容を重視した指導の成果であると考えられる。</p> <p>●県の平均を2.0ポイント、市の平均を3.5ポイント下回った。特に地層領域の正答率が低い。問題文から分かることを分析して答える問題の正答率が芳しくない結果となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も基礎的な内容を重視した指導を継続していきたい。 記述形式で適切に答える力が不足している部分があると考えられるので、文章で答える場面を授業やテストで増やすなど文章力を付ける指導を検討していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	55.7	59.6	56.1
	読むこと	59.3	61.6	59.1
	書くこと	58.2	55.2	51.9
観点	知識・技能	63.3	64.7	61.9
	思考・判断・表現	51.7	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	54.9	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○絵を適切に表している英文(数)を聞き取る問題では、校内正答率が90%を超えている。また、同じく絵を適切に表している英文(状況)を聞き取る問題では、県と比べて2.0ポイント上回っている。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題(何時に来たかをたずねられて)では、県と比べて3.9ポイント下回っており、英文の概要を聞き取る問題では県より2.4ポイント下回っている。</p>	<p>・日頃の授業で、英語の曲を聞いたり、教師側がたくさん英語を使ったり、英単語や英文の発音練習を何度も行ったりすることで、英単語の音そのものに慣れていけるようにする。</p> <p>・疑問詞を用いた疑問文の聞き取りも苦手なので、疑問詞の復習にも力を入れていき、リスニング力向上を図っていきたい。</p>
読むこと	<p>○読むことの領域全体では、県と比べてわずかに上回っている。長文の読み取り問題の各設問では、県と比べてそれぞれ6ポイント以上上回っている。</p> <p>●様々な英文の読み取り問題の中で、必要な情報を読み取る問題が、県より8.2ポイント下回っている。</p>	<p>・教科書の内容をじっくりと読み、内容を理解しようと努めている成果が出たのではないかと思う。今後とも文中の代名詞が具体的に何を示しているのかなど、細かい点にも注意しながら読めるよう授業を展開していく。</p> <p>・本文の内容のおおよそを読み取れたとしても、それをもとに英文を作るとなると苦手意識を持ってしまい、なかなか挑戦できない生徒も少なくない。まずは教科書の内容の簡単な英問英答を解かせるなどして、苦手意識を払拭していく。</p>
書くこと	<p>○書くことの領域全体では、県と比べて6.3ポイント上回っている。3文以上の英作文で、自分の学校生活を含めて、まとまった内容で自己紹介する問題では、全ての設問において県を上回っている。</p> <p>●対話の流れに合った英文を書く問題(現在進行形の否定文)では、書くことの問題で唯一、県より下回った。</p>	<p>・語順を問う問題は比較的正答率が高く、語順問題専用の補助教材を使うことで力がついてきているのだと思う。引き続き、基本的な語順の問題を何度も繰り返して解かせていく。</p> <p>・「読むこと」でも述べたように、英作文に漠然とした苦手意識や不安感を覚えている生徒が多く、無解答のままの生徒もいる。自分のことを簡単な英文で表現できるよう、アクティビティーを工夫していくことや、英語での自己表現に必要な語彙力の向上を図るために英単語テストを実施することも継続して行っていく。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習についての質問では、「自分で計画を立てて学習している」の肯定的回答が66.1%で、県の平均を1.2ポイント上回っており、「授業の復習をしている」の肯定的回答は96.8%で、市の平均をやや上回っている。「テストで間違えた問題を勉強している」に対する肯定的回答は75.8%で、市の平均を6.9ポイント上回っている。「家で、学校の授業の復習をしている」では、「はい」と答えた生徒が1番多く、市の平均を19.7ポイント上回っている。

○平日の学習時間に対する質問では、「2時間以上3時間より少ない」の回答が、27.4%と市の平均を上回っている。

○授業での様子に関する質問では、「グループでの話し合い活動に自分から進んで参加している」の肯定的回答が、82.3%で市の平均を5.9ポイント上回っている。また、「自分の考えを発表する機会が与えられている」は66.1%で市の平均を14.6ポイント上回り、「クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は53.2%で市の平均を2.3ポイント上回っている。話し合い活動は充実しており、「友だちの前で自分の考えや意見発表することは得意である」の回答で「どちらかと言えば、はい」が33.9%で、市の平均を9.8ポイント上回っている。

○「授業のめあてが示されているか」の回答では、80.6%で市の平均を10.6ポイント上回り、「授業ノートには、学習の目標とまとめを書いている」の回答では、市・県の平均をともに上回っているなど、振り返りをいかした授業が行われている。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対して、「はい」と回答した生徒が市の平均より10.2ポイント下回っており、自主的な取組が課題だと思われる。

●平日の学習時間に対する質問においては、30分から3時間まで、幅広いデータがあがっており、生徒の取り組み方の差が大きいことがわかった。また、「平日の読書時間」においても、「全くしない」との回答が一番多く、24.2%であった。このことから、今後は、3学年への進級に向け、少しずつ学習時間を増やし、自ら学べるようになると学力向上に繋がると思われる。

●「学校の宿題は、自分のためになっている」は62.9%で市の平均より13.9ポイント上回っているが、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の回答は、市の平均をやや下回っている。このことから与えられた課題に対しては真面目に取り組めるので、疑問点をもって学習をすすめるとさらに理解が深められると考えられる。

●「授業を集中して受けている」の肯定的回答では、市の平均、県の平均を下回っている。このことから、集中して授業に臨むための雰囲気作りが大切であると思われる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫。	主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)の実践に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は72.6%で、市の割合の73.1%と比べてほぼ同等といえる。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は74.2%と、多くの生徒が「書く」ことに苦手意識をもっている。「表現」に関わる問題の本校正答率において、「思考・判断・表現」の観点では、社会は3.1ポイント、理科は3.8ポイント、英語は0.7ポイント下回った。
	読書活動の充実を図る。	「学校の読書時間以外に、ふだん、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。」の質問に30分以上と回答した生徒の割合は22.6%で、市の割合の30.7%と比べて8.1ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的内容の定着がされていない。	基礎的・基本的内容の定着を図る。特に授業の導入時や振り返りで、AIDリルやミニテスト等を行うことで定着を図る。	・小学校からのつまずきを小中一貫教科部会で把握し小中9年間を見通した指導を行う。 ・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。 ・各教科で確実に定着させる内容ではドリル学習を根気強く行う。 ・保護者への今まで以上の啓発活動を保護者会、三者懇談や日常の接する機会を通してする。